



子どもは大好き  
スピリチュアルな話  
おとなも？

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

# スクールソーシャルワーカーだより 69

## スピリチュアルに寄せて

今となっては笑い話ですが、西暦1999年7月、人類が滅亡するという大予言が、公害などで将来に不安を持つ『当時の日本』にオカルトブームを巻き起こしました。コンピューターが「2000年」という時間を認識できず、この世が大混乱に陥ると言う心配もありました。

2年前、パンデミックと騒がれつつ始まったコロナ禍ですが、今年2022年、世界はウィズ・コロナの時代となりました。

☆

『現代日本』でスピリチュアルがブームにならないのは、将来への不安が無いからでしょうか。マスクミが取り上げないからでしょうか。

百年前に始まったラヂオ放送、それから50年でテレビの時代に移り、家庭の中心は一台のテレビでした。

当時、学校での話題は、昨夜のテレビ番組でした。今でも、選択肢が少ない小さい子組のお気に入り、子ども向け番組にちなむアイテムのようで、日本中の子ども、共通の話題です。

テレビがひとり一台になった頃、生活の場からスピリチュアルなものが離れ、たとえば「トイレの神様」は、おばあちゃんの家にはしか居なくなったようです。

それでも子どもは、スピリチュアルな世界が大好きです。学校図書館にはスピリチュアルな存在を肯定したお話しがたくさん並んでいます。今こそおとなが、目に見えない大きな存在を共有することが必要な時代だと思うのです。

★

オカルトブームの頃までは人が、予想できず、考えるのをやめたところに神仏が居ました。

ところが今は、考える事なくネット検索で正解を求めてはいないでしょうか。意識しない内にまるで、神仏が変身してネット上に居場所を変え、見守り始めたかのようなのです。

昔は「神も仏もあるものか！」とあきらめたのに、今は延々と、ネットで正解を求めています。

ネットの選択肢から選ぶだけでは、自分の考えで行動する力を失って、あらゆることを他人任せにし、自分の責任を捨て去るようにならないか、心配になります。

☆☆

子どもに小言を言うと、「うるさい！死ぬ！」と反撃される事があります。

そこで口をつぐんでは子どもに、ここで言う「他人任せの道」を歩ませてしまいます。

遊ぶこと、騒ぐことは子どもの仕事です。そしてダメな事をダメと言うのは、おとなの仕事なのです。うるさがられても、言うべきことを言って子どもにバトンタッチしないと、誰も自分を振り返って考えなくなってしまいます。

スピリチュアルな存在を共有することもそうだと思うのです。ファンタジーの中で子どもは、自分の中に眠っている力を信じています。だから、スピリチュアルな、不思議な世界を、ネットから生活に取り戻して欲しいのです。

